

# mitsubishi

## 三菱 自然冷媒 ヒートポンプ式電気給湯機

時間帯別電灯通電制御型

セット形名

SRT-HP374WFK [ヒートポンプユニット:SRT-HPU454K、貯湯タンクユニット:SRT-HPT374WFK] (タンク容量:370L)

SRT-HP464WFK [ヒートポンプユニット:SRT-HPU604K、貯湯タンクユニット:SRT-HPT464WFK] (タンク容量:460L)

SRT-HP374WFKD [ヒートポンプユニット:SRT-HPU454K、貯湯タンクユニット:SRT-HPT374WFKD] (タンク容量:370L)

※リモコンは別売です。

■台所リモコン 形名:RMC-HP4KD ■浴室リモコン 形名:RMC-HP4BD ■サブリモコン(オプション) 形名:RMC-HP4KZ

## 据付工事説明書 販売店・工事店さま、お客さま用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。

据付工事の前にこの「据付工事説明書」を必ずお読みください。

この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、指定の純正別売部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。

### 据付工事をされる方へ

- 工事後は、取扱説明書、工事確認書とともに、お使いになるお客さまにお渡しし、保管していただくよう依頼してください。
- この製品はリモコン(別売)を接続しないと動作しません。必ずリモコンを接続して使用してください。
- この製品は作動中に運転音がします。運転音や振動が気になる場所には据え付けしないでください。  
また、各地区の騒音規制等に関する条例に従って設置してください。
- 冬期の最低気温がマイナス20℃を下回る地域(極寒地)では、使用できません。
- 冬期の最低気温がマイナス15℃を下回る地域では、貯湯タンクユニットを屋内に設置してください。
- 太陽熱温水器との接続はできません。
- 塩害地では使用できません。
- 作業現場での運搬はユニックなどによる吊り上げを基本とし、人のみの少人数による運搬は避けてください。  
(やむをえず人のみの場合は、肩かけバンドなどの運搬用機材を使用してください。また、ハンドル部での吊り上げはしないでください。)
- 製品の上面には上がらないでください。変形することがあります。
- メンテナンスのための十分なスペースを確保してください。
- 排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと下水ガスが逆流して給湯機が著しく腐食し、故障します。
- 本体1台に対して接続できる浴槽は1つです。(使用する浴槽の大きさの目安は、220L~350Lです。)
- 降雨中は貯湯タンクユニットの前面カバーや、ヒートポンプユニットの端子台カバーを開けないでください。
- 他の給湯機との複数接続はできません。
- 本体内蔵減圧弁からの2次給水はできません。
- 必ず水道水を使用してください。自家浄水システム等をご使用の場合は、水質によっては故障の原因になります。
- この製品は、単相200Vで動作します。
- 施工後すぐに使用しないときは、凍結防止のため、必ず給湯機の水抜きを行なってください。

この給湯機は、申請によって通電制御型として電気料金の割引が適用されます。適用にあたっては、最寄りの電力会社への申請が必要です。ご不明の場合は、必ず、最寄りの電力会社へご相談ください。(買い替え時などで機種変更した場合でも、電力会社へ申請が必要です。)




### もくじ(工事の流れ)



	ページ		ページ		ページ
1.安全のために必ずお守りください	2	5.配管工事		7.リモコン工事	
↓		5-1.ヒートポンプ配管・貯湯タンク配管・ふろ配管工事	8	7-1.台所リモコン、サブリモコン取付工事	15
2.同梱付属品	3	5-2.配管例	9	7-2.浴室リモコン取付工事	16
↓		5-3.凍結防止工事	10	7-3.リモコンケーブルと貯湯タンクユニットの接続工事	17
3.現地で使用する主な部品	3	5-4.保温工事	10	8.工事完了確認(試運転)	18
↓		5-5.2、3階給湯配管例	11	↓	
4.据付工事		5-6.階下給湯例	11	9.チェックリスト	20
4-1.据付場所の選定	4	5-7.浴槽関連工事	11	↓	
4-2.据付場所の制約	5	6.電気工事	12	10.お客さまへの説明	20
4-3.ヒートポンプユニットの据付	6	↓		↓	
4-4.貯湯タンクユニットの据付	6	6-1.貯湯タンクユニットへの配線工事	13	11.エラーが表示された場合	21
		6-2.ヒートポンプユニットへの配線工事	13	↓	
		6-3.アース工事	14	12.エラーコード一覧	22
				外形寸法図	24

この据付工事取扱説明書は再生紙を使用しました。

# 1.安全のために必ずお守りください

■本文中に使われる図記号の意味は次のとおりです。


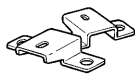


	禁止		アース線接続		指示に従う
---	----	---	--------	---	-------

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があるもの		
<p>ヒートポンプユニットは屋内に設置しない</p> <p>万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。</p> <p></p>	<p>必ずアース工事 (D種) をする</p> <p>各ユニットからのアース線</p> <p>アース工事</p> <p>アース棒</p> <p>工事に不備があると、故障や漏電のときに感電することがあります。</p>	<p>ガス類や引火物の近くには据え付けない</p> <p>発火・火災になることがあります。(ガスボンベからは2m以上離してください。)</p> <p></p>
<p>漏電遮断器の動作を確認する</p> <p>故障のまま使用すると、感電することがあります。</p> <p>動作確認</p>	<p>屋外で開梱する場合は、風が当たらない安定した場所に置き直す</p> <p>強風によって製品が転倒し、事故の原因になります。</p> <p>軒下など</p>	<p>電気工事を行うときは電源ブレーカーを「切」にする</p> <p>感電することがあります。</p> <p>「切」</p>
<p>階下給湯は5m以内とする</p> <p>負圧によりタンクが破裂したり、空気の混ざった湯水が飛び散りやけど・水漏れの原因になります。</p> <p>5m以内</p>	<p>湿気の多い場所に据え付けない</p> <p>浴室など湿気の多い場所に据え付けると、火災・感電の原因になります。</p> <p>禁止</p>	<p>満水時の重量に耐える基礎工事を行う</p> <p>事故・故障の原因になります。</p>
<p>貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターは、保温材で覆わない</p> <p>発火・火災になることがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>電源ケーブルは確実に取付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>丸端子の圧着は下図に従う</li> <li>丸端子に適合した圧着工具で正しく圧着してください。</li> </ul> <p>芯線 電源ケーブル</p> <p>0.5mm~1mm</p>	<p>上水道直結の配管工事や電気工事は、必ず指定工事業者が行う</p> <p>【上水道直結の配管工事】 当該水道局(水道事業管理者)の認定水道工事業者が、指定された配管材料を使用し行なってください。</p> <p>【電気工事】 電気設備基準及び内線規程に基づいて、指定業者が行なってください。</p> <p>事故・故障の原因になります。</p>
<p>貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターと配線は50mm以上離す</p> <p>配線とヒーターが接触すると発火・火災になることがあります。</p> <p>50mm</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>端子の締付基準トルクは、3.2~3.6N・mとする</li> <li>ヒートポンプ電源通信線は、必ず単線を使い、電源通信ターミナルに確実に取付ける</li> </ul> <p>火災・発火の原因になります。</p>	

注意 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの		
<p>凍結防止対策を行う</p> <p>凍結すると、本体が破損したり、配管が破裂してやけどをすることがあります。</p> <p>凍結防止ヒーター</p>	<p>床面の防水・排水処理工事をする</p> <p>処理工事しないと、水漏れが起きたとき、大きな被害につながる可能性があります。</p>	<p>脚をアンカーボルトで固定する</p> <p>固定しないと地震のとき、本体が倒れてけがをすることがあります。</p> <p>アンカーボルト</p>
<p>2階以上に据付ける場合は、上部振れ止め金具で本体を固定する</p> <p>固定しないと地震のとき、本体が倒れてけがをすることがあります。</p>	<p>水道水を使用する</p> <p>水漏れ、故障の原因になります。</p> <p>水道水</p>	<p>工事中は手袋を着用する</p> <p>金属端面によるけがや高温部接触によるやけどの原因になります。</p> <p>手袋</p>
<p>雨や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるようなところには据え付けない</p> <p>感電することがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>定格を確認して使用する</p> <p>発火・火災になることがあります。</p> <p>定格確認!</p>	<p>以下の場所には設置しない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>塩害地</li> <li>運転音や振動が気になる場所</li> <li>最低気温がマイナス20°C以下となる場所</li> <li>積雪地域ではヒートポンプユニットに雪が積もらないようにしてください。(落雪にも注意してください。)</li> <li>水平でない場所、不安定な場所</li> <li>階段・避難口などの付近で、避難の支障となる場所</li> <li>排水のしにくい場所</li> <li>キッチン換気扇付近(油分の付着や排気による影響)</li> </ul> <p>事故・故障の原因になります。</p>
<p>ヒートポンプ配管、継手部分の保温工事は確実に施工する</p> <p>はがれたりすると、やけどをすることがあります。</p> <p>台所リモコン</p>	<p>据付工事には、三菱純正売部品を使用する</p> <p>台所リモコン</p> <p>事故・故障の原因になります。</p>	

# 2.同梱付属品

貯湯タンクユニットの同梱付属品

<p>上部振れ止め金具 (本体上部に固定)</p> <p></p> <p>&lt;1個&gt;</p>	<p>脚固定金具 (脚に固定)</p> <p></p> <p>&lt;2個&gt;</p>	<p>パテセット (本体内部に同梱)</p> <p></p> <p>&lt;2個&gt;</p>	<p>取扱説明書、据付工事説明書、据付工事確認書、保証書等</p> <p></p> <p>&lt;一式&gt;</p>
--	--	---	--

# 3.現地で使用する主な部品

必要な部品

No.	部品名	形名	個数
1	台所リモコン+浴室リモコン	RMC-HP4KD + RMC-HP4BD	1
2 (選択)	浴槽アダプター (ストレート型)	GT-F76	1
	浴槽アダプター (L型)	GT-F79	
3 (選択) 注1	リモコンケーブル (2芯 20m, 線径:0.3mm <sup>2</sup> )	LM-620	1
	リモコンケーブル (2芯 50m, 線径:0.3mm <sup>2</sup> )	LM-650	
4	ヒートポンプ配管 (銅管10A, 20m)	GT-101	1
5 (選択)	銅管アダプター (ストレート型)	GT-103	4 注2
	銅管アダプター (L型)	GT-102	
6	銅管エルボ (継ぎ手)	GT-104	注3
7	アース棒	GT-30B	1
8	アンカーボルト (脚部固定用) M12 (30本入)	GZ-B1	1

条件により準備する部品

No.	部品名	形名	個数
9	サブリモコン	RMC-HP4KZ	1
10 注4	脚部カバー (370L, 460L用)	GT-F460	1
11	防雪カバー	GT-122	1
12	風向ガイド	GT-131	1
13	アンカーボルト (上部固定用) M10 (50本入)	GZ-B2	1

注1. リモコンケーブルは、台所リモコン、浴室リモコン各1本ずつが必要です。また、サブリモコンを取り付ける場合にも必要となります。設置状況に合わせて選んでください。  
注2. 銅管アダプターは、合計で4個必要となります。  
注3. 銅管エルボは、配管の曲げ数分必要となります。  
注4. 脚部カバーを取付ける場合、貯湯タンクユニット本体を据付ける前に脚部カバーの支持板を本体に取付けてください。

その他必要な部品 (市販品)

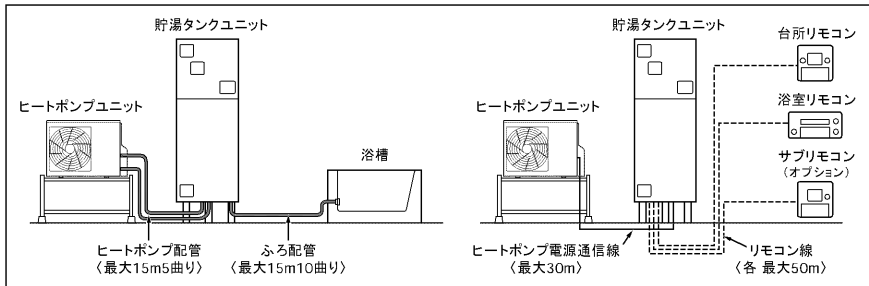
No.	部品名	仕様等
1	ヒートポンプユニット用コンクリート簡易基礎	許容荷重:590N以上、奥行き 700mm以上
2	凍結防止ヒーター	推奨品:東京特殊電線 NFオートヒーター
3	ヒートポンプ電源通信線	φ2.0, VVF線 (3芯・単線)
4	配線用PF管	電源線用・ヒートポンプ電源通信線用:φ22, リモコン線用:φ16
5	給水・給湯配管用不凍結水栓	止水と配管内の水抜きを行える水栓
6 (選択)	架台 (大)	推奨品:(株)キャッチャー製 C-MW2 外形(高さ 980mm×幅 917mm×奥行き 538mm)、質量(18kg)
	架台 (小)	推奨品:(株)キャッチャー製 C-BWZ 外形(高さ 941mm×幅 878mm×奥行き 436mm)、質量(14kg)
7	防雪屋根用架台 + 防雪屋根	<防雪屋根用架台> 推奨品:(株)キャッチャー製 PC-N38 外形(高さ 895mm×幅 1043mm×奥行き 485mm)、質量(23.7kg) <防雪屋根> 推奨品:(株)キャッチャー製 PC-R30-2 外形(高さ 900~1250mm×幅 952mm×奥行き 393mm)、質量(29.5kg)、積雪耐荷重:300kg
8	アース線接続用端子	M4 丸型端子

# 4. 据付工事

## 4-1. 据付場所の選定

〈ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニット共通項目〉

- 冬の最低気温がマイナス20℃を下回る地域（極寒地<sup>®</sup>）では使用できません。  
※旭川市、釧路市、帯広市、北見市、網走市、富良野市など
- 塩害地では使用できません。
- 温泉地帯など特殊な場所では機器が故障する恐れがありますので据え付けしないでください。
- ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
- 「据付場所の制約（→5ページ）」を守ってください。
- 配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
- 雨や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるような所には絶対据え付けしないでください。
- 下図の配管・電線は、最短となるように施工してください。長さに制約があります。



〈ヒートポンプユニット〉

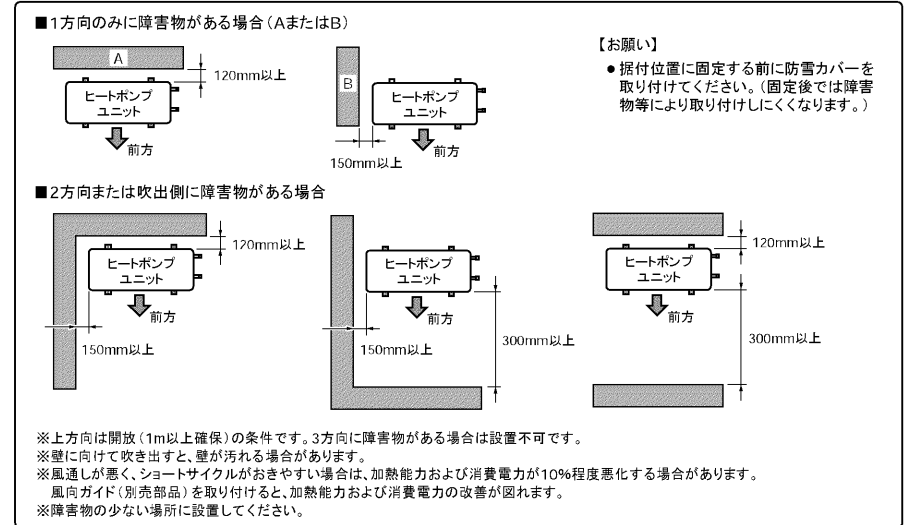
- ヒートポンプユニットは屋内に据え付けしないでください。
- ヒートポンプユニットは通気性の良い場所に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットはわかき上げ中および凍結防止運転中に運転音、振動が発生します。据付け場所の状態、運転音は大きくなります。また、わかき上げ中は冷風がでますので、寝室の近くやご近所の迷惑になる場所への据え付けは避けてください。また、各地区の騒音規制等に関する条例に従って設置してください。
- ヒートポンプユニットは強風に当たらない場所を選定してください。（風が当たると除霜時間が長くなります。）
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは置台の上に据え付けるなど、降雪・除雪による雪が空気吸込口・吹出口に入らないよう、防雪カバー（当社純正別売部品）を据付位置に固定する前に取り付けてください。また、防雪屋根を設置して雪が積もらないようにしてください。
- ヒートポンプユニットはテレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。（テレビ・ラジオに映像のみだれや雑音が生ずることがあります。）
- わかき上げ時、結露した水がヒートポンプユニットのドレン口から排水されますので、排水ができる場所に据え付けてください。（排水が通路等で再凍結して危険とならないように、排水方法を配慮してください。）
- ヒートポンプユニットから前方に出る風が気になる場合は、風向ガイド（当社純正別売部品）を取り付けてください。

〈貯湯タンクユニット〉

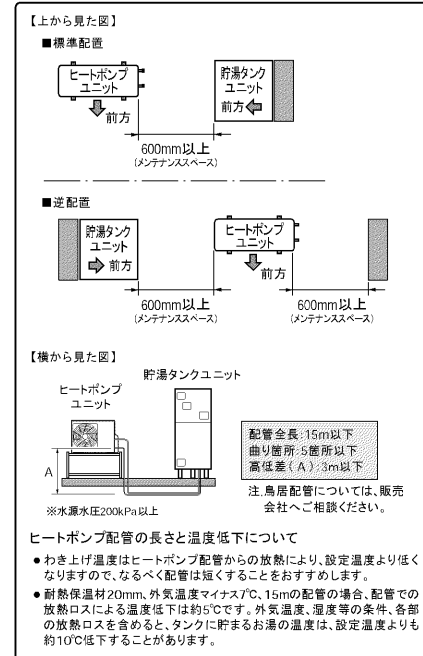
- 冬の最低気温がマイナス15℃を下回る地域は、貯湯タンクユニットを屋内に設置してください。
- 貯湯タンクユニットを屋内に据え付ける場合は、屋外に据え付ける場合の注意に加え、特に下記を厳守してください。
  - 結露防止のため、通気口を設け密閉室にしないでください。
  - 床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
  - 浴室など湿気の多い所には据え付けしないでください。
- 積雪地域で貯湯タンクユニットを屋外に据え付ける場合は、小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。
- 貯湯タンクユニット設置階の上の階に給湯するときは、貯湯タンクユニット設置階の給湯回路に流量調整バルブ（流量絞り弁）を取り付けて、階高さ違いによる流量バランスの調節をしてください。

## 4-2. 据付場所の制約

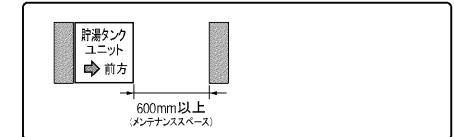
ヒートポンプユニット単体の据付制約（上から見た図）



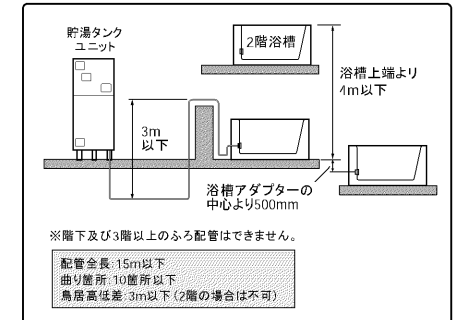
ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット間の据付制約



貯湯タンクユニット単体の据付制約（上から見た図）



貯湯タンクユニットと浴槽間の据付制約（横から見た図）



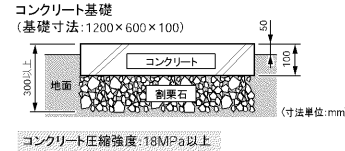
### 警告

- ヒートポンプユニットは屋内に設置しない  
 万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。
- ガス類や引火物の近くには据え付けない  
 発火・火災になることがあります。

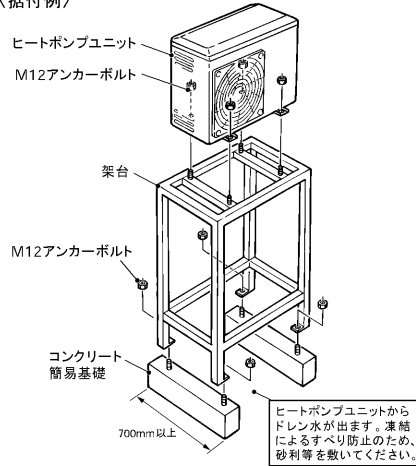
# 据付工事(つづき)

## 4-3. ヒートポンプユニットの据付

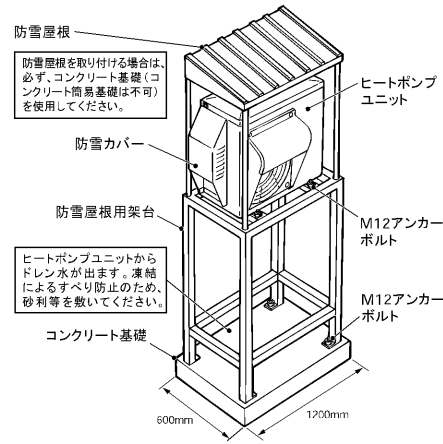
- コンクリート簡易基礎(市販品)またはコンクリート基礎(右図)を使用して屋外、床置きにて水平に据え付けてください。  
(水平に据え付けられていないと、運転音や振動が大きくなったり、機器破損の原因となります。水平かどうかは、水準器等で確認してください。)
- 架台の上に設置し、雪入り対策をしてください。
- ヒートポンプユニットの脚は必ず架台に固定してください。  
また、架台は基礎に固定してください。
- 積雪地域では、防雪カバー(当社純正別売部品)、防雪屋根(推奨品)を取り付けてください。防雪屋根を取り付ける場合は、必ず、コンクリート基礎(コンクリート簡易基礎は不可)を使用してください。



### 〈据付例〉



### 〈積雪地区の据付例〉



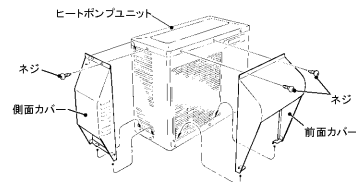
部品名	仕様等
架台(大)	推奨品:(株)キャッチャー製 C-MW2 外形(高さ980mm×幅917mm×奥行538mm)、質量(18kg)
架台(小)	推奨品:(株)キャッチャー製 C-BWZ 外形(高さ941mm×幅878mm×奥行436mm)、質量(14kg)
コンクリート簡易基礎	許容荷重590N以上 奥行き700mm以上

部品名	仕様等
防雪屋根用架台	推奨品:(株)キャッチャー製 PC-N38 外形(高さ895mm×幅1043mm×奥行485mm)、質量(23.7kg)
防雪屋根	推奨品:(株)キャッチャー製 PC-R30-Z 外形(高さ900×幅1250mm×幅952mm×奥行393mm)、質量(29.5kg) 積雪耐荷重:300kg
防雪カバー	別売部品 GT-122

### 防雪カバーの取付方法

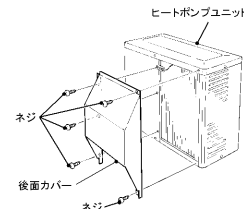
#### 1. 前面カバー、側面カバーを取り付ける

ヒートポンプユニットに既設のねじを使用して、前面カバー、側面カバーを取り付けます。



#### 2. 後面カバーを取り付ける

ヒートポンプユニットに既設のねじを使用して、後面カバーを取り付けます。

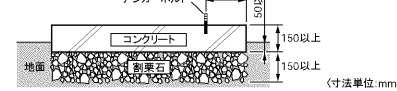


## 4-4. 貯湯タンクユニットの据付

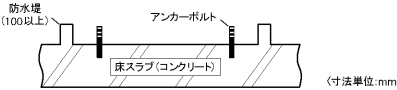
### 基礎工事

- 貯湯タンクユニット満水時の質量<sup>※</sup>に十分耐える基礎工事をしてください。  
※満水時の質量: SRT-HP374WFK(D)…約465kg  
SRT-HP464WFK…約565kg
- 床面は防水・排水工事を行ってください。
- 基礎工事は下図に従って行ってください。  
コンクリート圧縮強度:18MPa以上、アンカーボルト引き抜き力:9800N以上

### 〈戸建住宅〉



### 〈マンション等の集合住宅〉



【お願い】●屋内に据え付ける場合は、必ず防水堤(高さ100mm以上)を付けてください。また、必ず、適切な防水・排水工事を行ってください。

### 脚部カバー(別売)取付工事

- 脚部カバーを取付ける場合、貯湯タンクユニット本体を据え付ける前に脚部カバーの支持板を本体に取り付けてください。  
詳しくは脚部カバーの説明書をご覧ください。

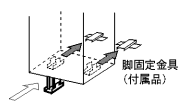
### 脚部固定工事

- 地震時の転倒防止のため、アンカーボルトを使用して基礎の上に固定します。3箇所必ず固定してください。
- 必ず水平に据え付けてください。



### 後脚がアンカーボルトで固定できない場合

- ①付属の脚固定金具をM12アンカーボルトで固定します。
- ②本体を矢印の方向に移動させ、後脚を脚固定金具の爪にはめ込みます。
- ③前脚をアンカーボルトで固定します。

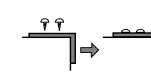


### 注意

- 貯湯タンクユニットの脚部をアンカーボルトで固定する(けがの原因)

### 上部振れ止め工事

- ①貯湯タンクユニットの上面に取り付けてある上部振れ止め金具を外し上向きに取り付けます。
- ②上部振れ止め金具を壁に固定します。

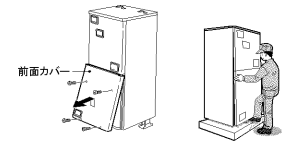


### 注意

- 2階以上に据付ける場合は、上部振れ止め金具で本体を固定する(けがの原因)

### 貯湯タンクユニット前面カバーの外し方

- 前面カバーのねじ(4本)を外したあと、前面カバーを上げながら手前に引いて降ろします。(前面カバーの取外し、取付けは右図のように行ってください。)
- 【お願い】●外した前面カバーは傷が付かないよう、風が当たらない安定した場所に正面を上にして横置きしてください。また、操作カバーのつまみが壊れないように注意してください。
- 工事が終わったあと、前面カバーは元どおりねじ(4本)で確実にしめてください。

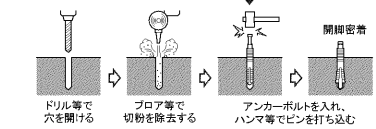


### 【お願い】

- 原則として、屋外に据え付けてください。
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。  
アンカーボルト(脚固定用 形名:GZ-B1) 寸法(mm)

直径	全長	ねじの長さ	ドリル径	埋込み深さ
12	100	30	12.7	70

### 芯棒打込み式おねじアンカーボルトの施工例



### 注意

- 床面の防水・排水処理工事をする(大きな被害の原因)

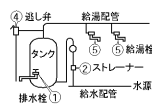
# 5. 配管工事

- 上水道を使用する場合は当該水道事業者の条例に基づき認定水道工業者が施工してください。
- 必ず水道法に定められた飲料水の水质基準に適合した水道水を使用してください。自家浄水システム等をご使用の場合は、水质によっては故障の原因になります。
- 水源水圧は200kPa以上で使用してください。
- 水栓は逆止弁付湯水混合栓を使用してください。使用する蛇口によっては、出湯量が少ない場合があります。特にシャワーはやけど防止のため、サーモスタット付湯水混合栓を使用してください。(湯水混合栓の構造により、出湯量が極端に少ない場合があります。ご使用になるときは、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。手元ストップシャワー、マッサージシャワー等のシャワーヘッドでは出湯量が少なくなります。)
- 排水口の下には必ず排水ホッパーを設けてください。
- 排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと下水ガスが逆流して給湯機が著しく腐食し、故障します。
- 太陽熱温水器との接続はできません。

**注意**  
●水道水を使用する  
(故障や水漏れの原因)

- 【お願い】配管材料をろう付けた場合は、ろう付け箇所付近に飛散したフラックスを濡れた布できれいに拭き取ってください。
- 給湯配管は、管の影響収縮がありますので、コンクリート壁やスラブを貫通するときはスリーブを使用し、埋設配管するときは管を固定しないでください。
  - 配管接合部のシール材は耐熱・耐食性のある材料を使用してください。
  - 配管材料はねじ切り・切断などの際、油やゴミが付着しますから、加工後は必ず中性洗剤で洗浄してから配管してください。また、キズやバリがないよう面に磨きを行ってください。(通水後は各水栓、ヒートポンプA配管などのストレーナーに行きまわってないか点検してください。)
  - シールテープを使用する場合は、ねじりよりはみ出さないようにしてください。
  - 減圧弁1次側の水圧検査は、750kPa以下で行ってください。

- 耐熱塩ビ管(HT管など)を接着接続した場合は、接着剤がストレーナー等へ付着しないよう硬化後に通水してください。使用する接着剤の種類、使用量、養生時間などは接着剤メーカーの説明書に従ってください。接着剤やフラックスが温水器のタンクに入り、湯から悪臭が発生した場合は以下の処置を行ってください。
- ①一度タンク内の水をわき上げた後、排水してください。タンク内の洗浄を行ってください。(100L程度の水を2回くらい入れ替えてください。)
  - ②ストレーナーの清掃または交換を行ってください。
  - ③タンクを濡れにしてください。
  - ④差し舟から1/2程度程度排水してください。
  - ⑤配管内を洗浄するために、各給湯機から10分程度、水を流してください。

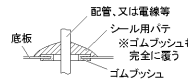


## 5-1. ヒートポンプ配管・貯湯タンク配管・ふろ配管工事

場所	使用配管材	配管サイズ	施工上の注意
ヒートポンプ配管	95℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(銅管、架橋ポリエチレン管(注)など)	10A (3/8B) φ12.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●配管は当社純正別売部品(形名:GT-101)または同等の銅管(10A)を推奨します。</li> <li>●ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニットのA-A、B-Bを接続してください。</li> <li>●配管には逆止弁・止水栓等、流れのさまたげになるものを取り付けしないでください。</li> <li>●配管長さは片道15m、5曲りまでです。 なるべく配管長が短くなるように施工してください。(配管からの放熱により、タンクに貯まるお湯の温度が設定温度より低くなるためです。耐熱保温材20mm、外気温度+17℃、15mの配管の場合、配管での放熱ロスによる温度低下は約5℃です。外気温度、湿度等の条件、各部の放熱ロスを含めると、タンクに貯まるお湯の温度は、設定温度より約10℃低下することがあります。)</li> <li>●配管の高低差はトータル3m以下としてください。鳥居配管については、販売会社へご相談ください。</li> <li>●ベアチューブは使用不可です。A側・B側それぞれ独立した配管とし、放熱を防ぐ保温材を巻いてください。(耐熱保温材:厚み20mm以上)</li> <li>●配管のつぶれや折れのないように施工してください。</li> </ul>
給水配管	耐食性を有するもの(銅管など)	20A (3/4B) φ22.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●貯湯タンクユニットの給水接続口から銅管等で接続してください。</li> <li>●故障や点検など排水するときに必要な、給水配管用不凍結水栓を取り付けてください。必ずお客さまが操作しやすい場所に取り付けてください。</li> </ul>
給湯配管	90℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(銅管など)	20A (3/4B) φ22.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●貯湯タンクユニットの給湯接続口から銅管等で接続してください。</li> <li>●階下給湯は、貯湯タンクユニット天面から5m以内です。</li> <li>●故障や点検など排水するときに必要な、給湯配管用不凍結水栓を取り付けてください。必ずお客さまが操作しやすい場所に取り付けてください。</li> </ul>
ふろ配管	80℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(銅管など) ただし、ゴムホースのようなやわらかい配管は使用不可(※2)	15A (1/2B) φ15.88	<ul style="list-style-type: none"> <li>●配管長さは15m、10曲りまでです。(耐熱樹脂管(呼び径13相当)を使用する場合は6m、5曲りまで)</li> <li>●階下へのふろ配管はできません。</li> <li>●設置面から浴槽上面までは、4m以下にしてください。</li> <li>●鳥居配管は1箇所のみとし、3m以下にしてください。</li> <li>●浴槽アダプターは指定のものを使用してください。</li> <li>●フレキ管の使用長さは1m以下にしてください。</li> <li>●配管は必ず放熱を防ぐ保温材を巻いてください。(耐熱保温材:厚み10mm以上)</li> <li>●また、行き戻り配管で熱交換するような施工はしないでください。熱交換により誤動作することがあります。(例:金属製ベアチューブの使用、2つの銅配管をまとめて断熱材で覆うなど)</li> <li>●配管のつぶれや折れのないように施工してください。</li> </ul>
排水配管	90℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(HT管など)	φ50以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●口径φ80以上の排水ホッパーや排水トラップおよびφ50以上の排水管を使用してください。</li> <li>●わき上げ中に貯湯タンクユニットの排水口やヒートポンプユニットのドレンホースより少量のお湯が出ますので、必ず排水工事を行ってください。</li> <li>●最大毎分40L程度排水されますので、十分排水できる排水工事をしてください。</li> </ul>

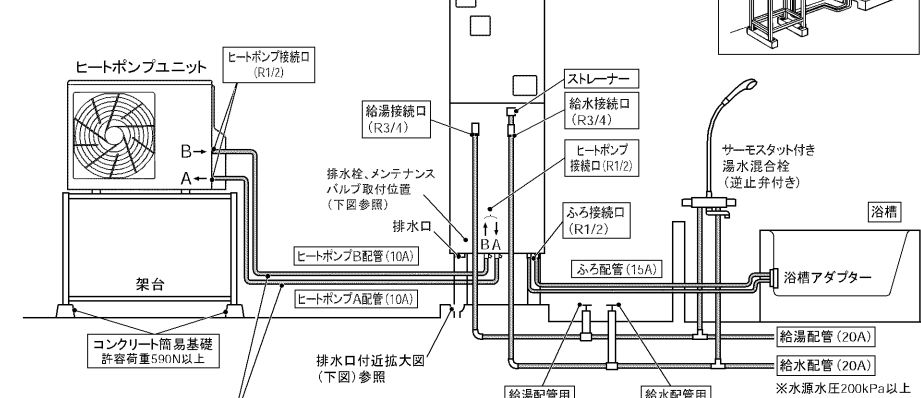
※1:配管サイズは、「JWWA H101規格」の数値です。 ※2:水の噴出ができなくなることがあるためです。  
注:ヒートポンプ配管に架橋ポリエチレン管を使用する場合は、95℃以上の耐熱性を有するものをご使用ください。また、直射日光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングキャップ・遮熱管およびシーリングテープを使用し、配管が露出しないように施工してください。

- 【お願い】フレキ管の使用長さはできるだけ短くしてください。(1m以内)
- ヒートポンプ配管にフレキ管を使用する場合、パッキンは耐熱性/ノンアスベストタイプを使用してください。
  - 貯湯タンクユニット底面の各配管口のゴムフック(右図)は外さないでください。また、本体と配管のすきまは、同梱のパテでシールしてください。(貯湯タンク等から漏水した場合、大きな破管につながるおそれがあります。シール方法についてはパテ付属の工事説明書をお読みください。)



## 5-2. 配管例

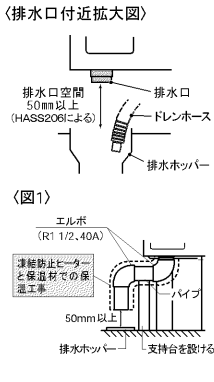
### 標準配管例



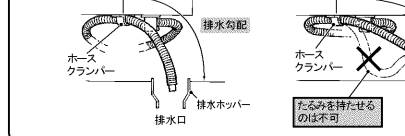
- ヒートポンプ配管**
- A-A、B-Bの記号を合わせて接続してください。
  - 配管には逆止弁・止水栓等、流れのさまたげになるものを取り付けしないでください。
  - ベアチューブは使用せず、必ず独立した配管とし、保温材を巻いてください。
  - 配管接続前に通水し、配管内のゴミ等を取り除いてください。
  - ヒートポンプ配管のつぶれやつまり、試運転でのエア抜き不良等があると、リモコンに「HP/PIPE」とエラーが表示され、わき上げできません。

### 排水口付近拡大図

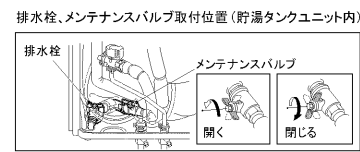
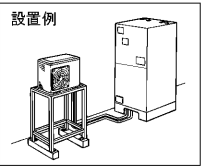
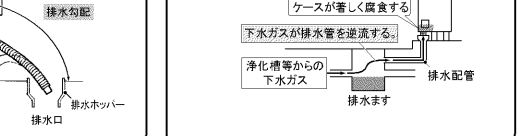
- 排水口と排水ホッパーの中心位置を確実に合わせてください。(中心位置がずれていると、排水時に水が飛び散って床面を濡らすことがあります。)
- 排水口と排水ホッパーの位置がずれている場合は、銅管等を使用し、最小距離で中心を合わせてください。排水時間が長くなったり、途中で凍結して排水できなくなることがありますので、横引きをする場合は、凍結防止対策(金属配管で施工し、凍結防止ヒーターと保温材での保温工事)を必ず実施してください。(図1)
- ドレンホースは貯湯タンクユニットの底面より上にならないようにして排水ホッパーへ導いてください。また、ドレンホースの先端は水に浸からないようにご注意ください。(排水性能が著しく低下します。)
- ドレンホースは切断しないでください。
- ドレンホースが排水ホッパーから外れそうときは釘金などで固定してください。
- ドレンホース用のクランパーが付いています。ホースクランパーから排水ホッパーまでは、排水勾配を設けてください。(図2)



### 貯湯タンクユニットが排水口から近い場合



### 貯湯タンクユニットが排水口から遠い場合



### 施工時の注意事項

- 貯湯タンクユニット及びヒートポンプユニットの排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、製品が著しく腐食し、故障します。
- 腐食が発生しない 正しい施工例  
排水トラップがあるので下水ガスの逆流がない。機器の膨張水を封水する。(ますトラップの取付例)
- ✗腐食が発生する 誤った施工例  
浄化槽等からの下水ガスが排水管を逆流する。短期間に排水口近くのケースが著しく腐食する。

# 配管工事(つづき)

## 5-3. 凍結防止工事

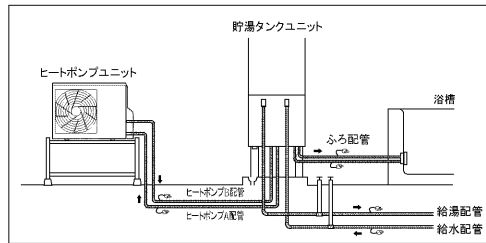
- 配管工事終了後、配管接続部での水漏れの有無を点検してから、凍結防止工事をしてください。
- 保温工事がしてあっても、周囲温度が0℃以下になると配管は凍結し、機器や配管が破損する場合がありますので、適切な凍結防止対策を行ってください。(本機はヒートポンプ配管の凍結防止運転機能が付いていますが、冬期に電源を切ると凍結防止運転は行いませんので、長期間不在等で電源を切るときのために凍結防止ヒーターを設置してください。)

### 凍結防止ヒーター(市販品)を外配管に巻く方法

推奨品:東京特殊電線 NFオートヒーター

※外気温を検出するタイプは温度誤検出のおそれがありますので、配管の温度を直接検出するタイプのものを使用してください。

- 凍結防止ヒーターは凍結のおそれがある配管すべてに施工します。ヒートポンプユニットの継手部分およびストレーナーは凍結しやすいため、必ずヒーターを施工してください。
- 凍結防止ヒーターは疎密にならないように均一に巻いてください。
- 給水配管、給湯配管、ふろ配管は、本体内容各接続口まで巻いてください。
- 凍結防止ヒーターは何本も使用しますのでコンセントを適当な位置に設置してください。



### △注意

- 凍結防止対策を行う(やけどや水漏れの原因)

### 【お願い】

- 凍結防止ヒーターの施工についての詳細は、凍結防止ヒーターに同梱の説明書にしたがってください。
- 凍結防止ヒーターの取扱方法、操作方法をお客さまに十分説明してください。
- 機器の電源を切って保管する場合は必ず機器及び配管の水抜きを行なってください。(→19ページ 7項)

## 5-4. 保温工事

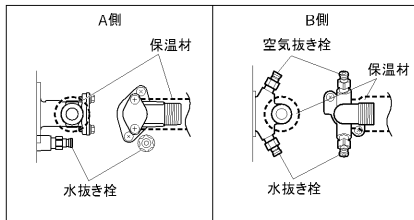
- 配管工事終了後、配管接続部での水漏れの有無を点検し、凍結防止工事を行ってから、保温工事をしてください。
- 給水、給湯、ヒートポンプ配管およびふろ配管は、必ず耐熱保温材による保温工事を行ってください。

耐熱保温材:厚み20mm以上で各水道事業者指定の厚み(本体内容は厚み10mm以上)

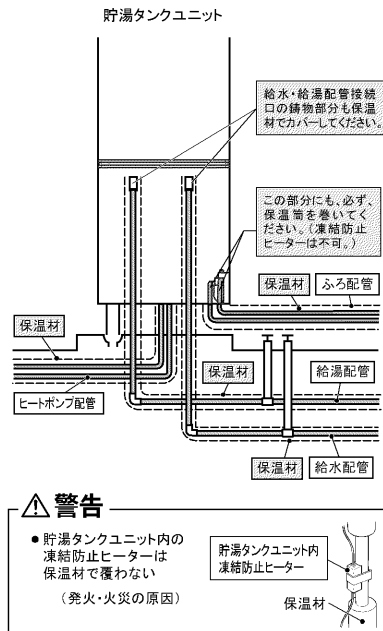
### 【お願い】

- ヒートポンプ配管およびふろ配管にも確実に保温工事を行ってください。保温工事が正しく行われていないと、配管の途中で放熱し、正常に上がり湯ができません。また、冬期では凍結のおそれがあります。
- 保温工をした部分は、保温材がぬれないようテープなどで必ず防水処置をしてください。
- ヒートポンプ配管の接続口(A側、B側)も保温工事を行ってください。

ヒートポンプユニット[A・B配管口保温施工詳細]

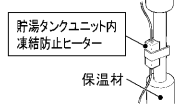


※空気抜き栓、水抜き栓は保温材を巻かないでください。



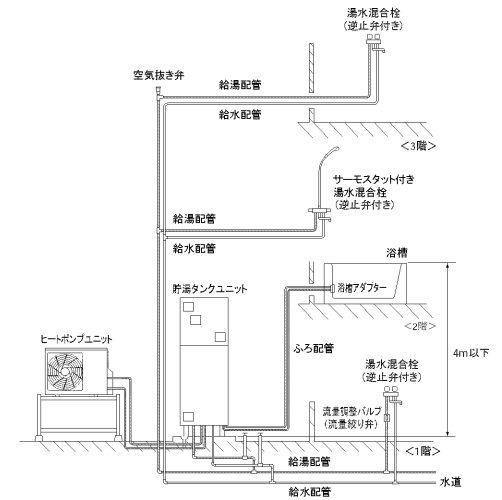
### △警告

- 貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターは保温材で覆わない(発火・火災の原因)



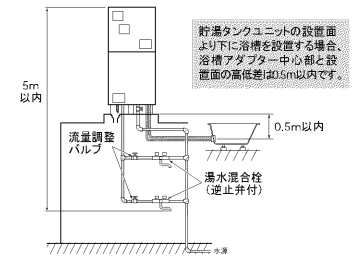
## 5-5. 2、3階給湯配管例

- 2、3階へ給湯配管する場合は、図のように行ってください。
- 貯湯タンクユニット設置階の上の階へ給湯するときは、貯湯タンクユニット設置階の給湯配管に市販の流量調整バルブ(流量が調整しにくい場合は流量絞り弁)を取り付け、階高さによる流量バランスを調整してください。
- 3階ではシャワーは使用できません。(手洗い程度であれば使用できます。洗髪洗面化粧台は使用できません。)
- 下の階で給湯しているときは、上の階での出湯が弱くなります。



## 5-6. 階下給湯例

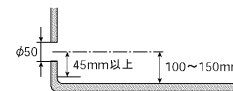
- 給湯配管は階下5mまで可能です。
- 給湯栓出口と貯湯タンクユニット天面の高低差は5m以内にしてください。5mを超えると空気の混ざったお湯が出て、飛び散ることがあります。
- 給湯配管の途中で流量調節バルブ(市販品)を取り付けてください。
- 空気の混ざったお湯が出る場合は、給湯機への給水量が不足しています。流量調節バルブ(市販品)で、給水と給湯する量がバランスするように調整してください。
- 階下への湯はりはできません。



## 5-7. 浴槽関連工事

### 浴槽穴あけ工事

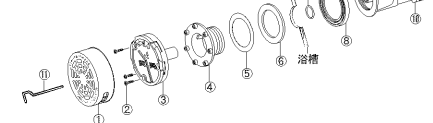
- 浴槽の穴は、底面から100~150mmの位置にあけてください。(洋風浴槽のような浅い浴槽では、できるだけ低い位置にあけてください。)
- 穴径のセンチは浴槽底面の曲がり終了位置から45mm以上確保してください。



### 浴槽アダプターの取り付け工事

- 浴槽アダプターは、設置条件に合わせて専用別売部品(GT-F76またはGT-F79)を使用してください。
- 取り付け方法については、浴槽アダプターの工事説明書をお読みください。
- 浴槽内厚15mmまで取付け可能です。
- 取り付けには別売の専用締付工具(当社製:GT-75K)を使用して、しっかり(15Nm程度)締め付けてください。
- フィルターガイドは「上」印が最も上になるように取り付けてください。
- ②のタッピングねじがゆるんでいると製品が正しく動作しませんので、確実に締めてください。

浴槽アダプター(別売部品) GT-F76

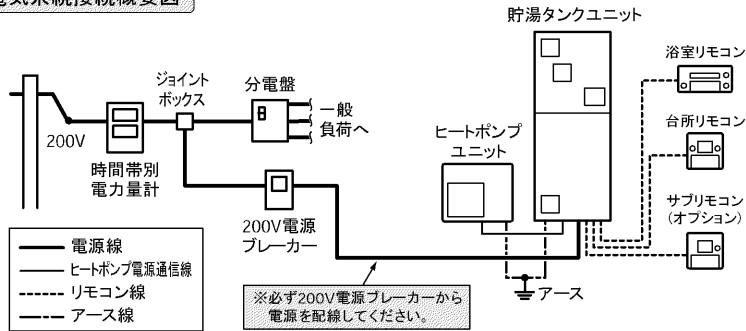


No.	部品名	数量
①	フィルター	1
②	タッピングねじ	3
③	フィルターガイド	1
④	浴槽フランジ	1
⑤	すべり板(半透明)	1
⑥	ハネン(黒)	1
⑦	リング	1
⑧	かさねハネン	1
⑨	浴槽き止め具	1
⑩	締付工具	1
⑪	一人施工用フック	1

# 6. 電気工事

- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。
- ブレーカーの定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
- 電力契約は必ず「時間帯別電灯」としてください。深夜電力契約はできません。
- 必ずタンクを満水にしたことと各止水栓が開いていることを確認してから電源を入れてください。
- 保護アース(接地)工事は万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるD種接地工事を行ってください。

電気系統接続概要図



必要部材

名称	仕様	備考
電源ブレーカー	単相200V、30A	
電源線	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)、VV線	2芯式、電源～貯湯タンクユニット
ヒートポンプ電源通信線	φ2.0、VV線(必ず単線を使用)	3芯式(単線)、最長30m以内、貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニット
リモコン線	0.3mm <sup>2</sup> 以上	2芯式、リモコン全回路、最長50m以内
PF管	φ22	電源線用(電源～貯湯タンクユニット)、ヒートポンプ電源通信線用(貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニット)
PF管	φ16	リモコン線用(貯湯タンクユニット～各リモコン)
アース線	φ1.6 IV線	

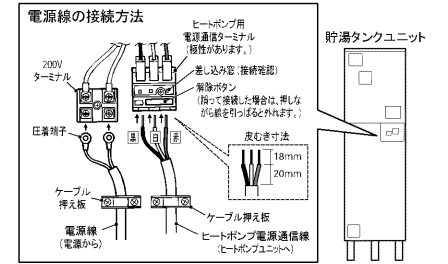
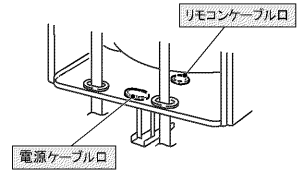
## 6-1. 貯湯タンクユニットへの配線工事

- (1) 電源線(電源～貯湯タンクユニット)をPF管(φ22)に通します。
- (2) ヒートポンプ電源通信線(貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニット)をPF管(φ22)に通します。(配線は最長30mまでです。)
- (3) 電源線(電源～貯湯タンクユニット)を電源ケーブル口から通し、200Vターミナルに接続します。

電源線 締付基準トルク 3.2～3.6N・m

【お願い】

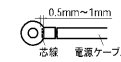
- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。
  - 電源線にVV線(平形)を使用する場合は、VV線用のクランプを現地調達して、交換してください。
- (4) ヒートポンプ電源通信線(貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニット)を電源ケーブル口から通し、ヒートポンプ用電源通信ターミナルに接続します。**必ず単線を使用する**
- 【お願い】
- 極性がありますので必ず合わせてください。(黒・黒、白・白、赤・赤)
  - 皮むき寸法は、右図にしたがって行い、必ずターミナルの差し込み窓から線が見えるまで確実に差し込んでください。その後、電線を1本ずつ引っぱり、抜けないことを確認してください。
- (5) 電源線、ヒートポンプ電源通信線をケーブル押え板で固定します。
- 【お願い】
- 端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。



⚠ 警告

電源線は確実に取付ける

- 丸端子の圧着は右図に従う
- 丸端子に適合した圧着工具で正しく圧着してください。
- 端子の締付基準トルクは、3.2～3.6N・mとする
- ヒートポンプ電源通信線は、必ず単線を使い、電源通信ターミナルに確実に取り付ける



(火災・発火の原因)

⚠ 警告

貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターと配線は50mm以上の距離を確保する (火災の原因)

## 6-2. ヒートポンプユニットへの配線工事

- (1) 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでのヒートポンプ電源通信線をPF管(φ22)に通します。
- (2) 配管カバー、端子台カバーを取り外し、ヒートポンプ電源通信線をユニット内へ通します。
- (3) クランプでPF管(ヒートポンプ電源通信線)を固定します。

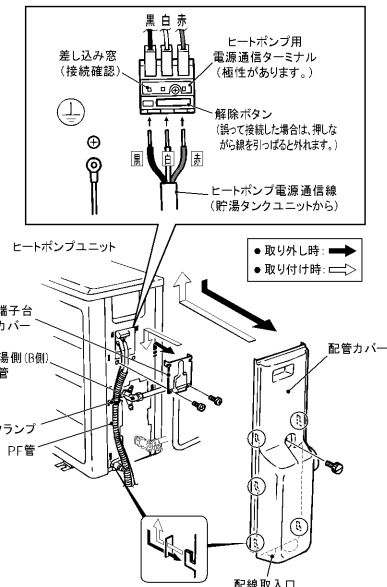
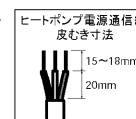
【お願い】

- 端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。
- 配線の際にPF管が給湯側(B側)配管に触れないように固定してください。(給湯側配管は90℃以上の高温になります。)
- また、水抜きの際に、PF管内に水が入らないように、PF管端部の位置が給湯側(B側)配管の接続口より上になるように固定してください。

- (4) ヒートポンプ電源通信線をヒートポンプユニットのヒートポンプ用電源通信ターミナルへ接続します。**必ず単線を使用する**

【お願い】

- 極性がありますので必ず合わせてください。(黒・黒、白・白、赤・赤)
- 皮むき寸法は、右図にしたがって行い、必ずターミナルの差し込み窓から線が見えるまで確実に差し込んでください。その後、電線を1本ずつ引っぱり、抜けないことを確認してください。
- 配線終了後、端子台カバーを取り付けると同時に、ヒートポンプ電源通信線の外側の被覆が端子台カバーの中に入っていることを確認してください。





# 電気工事(つづき)

## 6-3. アース工事

- 万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、  
○種接地工事を行ってください。  
注 この製品は電流動作形漏電遮断器(定格感度電流:100mA以下、動作時間:0.2秒以下)を使用しています。
- 水道管、ガス管への接地、および他の機器の接地との共用はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

**警告**

● 必ずアース工事をする(感電の原因)

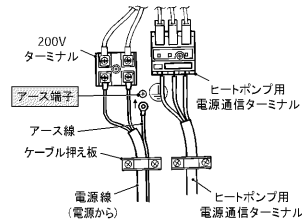
### 貯湯タンクユニット

(1) 貯湯タンクユニット下部の電源ケーブル口から、アース線(市販品)をユニット内へ通し、アース端子(⊕マーク)へ接続します。

締付基準トルク:0.7~1.3N・m

【お願い】

- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。



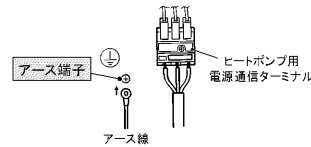
### ヒートポンプユニット

(1) ヒートポンプユニット下部の配線取入口から、アース線をユニット内へ通し、アース端子へ接続します。

締付基準トルク:0.7~1.3N・m

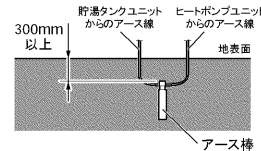
【お願い】

- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。



### アース棒の取り付け

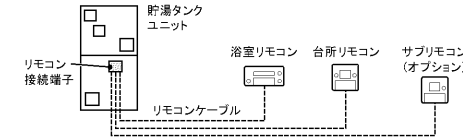
- (1) アース線2本をアース棒に接続します。
- (2) アース棒を地中300mm以上の深さに打込みます。



# 7. リモコン工事

- リモコン工事は、必ず電源ブレーカーを「切」にしてから行なってください。
- リモコンは、三菱純正別売部品をご使用ください。別売リモコン以外では、わき上げできません。
- リモコンケーブルは、三菱純正別売部品を設置条件に合わせて切断してご使用ください。  
[リモコンケーブル形名:LM-620またはLM-650(2芯、線径:0.3mm<sup>2</sup>)]
- 本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは接続できません。また、サブリモコンは1台のみ接続可能です。
- サブリモコンの単一使用はできません。

### リモコン接続概要図



## 7-1. 台所リモコン(別売 RMC-HP4KD)、サブリモコン(別売 RMC-HP4KZ) 取付工事

### 付属品

部品名	数量	部品名	数量
木ねじ	2	ケーブル押え*	1
オールプラグ	2	タッピングねじ*	1
Mねじ	2	中継ケーブル*	2
Y型端子	2	工事説明書	1

\*サブリモコンのみ同梱されています。

- 【お願い】
- リモコン本体を分解しないでください。
  - 操作説明ラベル(本体取扱説明書に同梱)を台所リモコンの近傍に貼り付けてください。
  - リモコンを直接砂の上や鉄くずのある床の上に置かないでください。スピーカ部(左上)に鉄粉等が付着し、音が出なくなります。

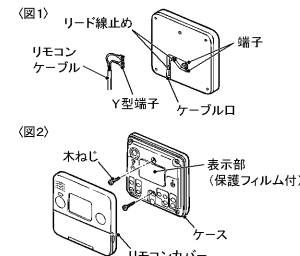
### 取付場所の選定

- 台所リモコン、サブリモコンは必ず屋内の平らな面に取付けてください。(凹凸があると取付時に変形して誤動作することがあります。)
- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(目の位置より少し下側)を選んでください。
- 台所リモコン、サブリモコンは防水タイプではありません。下記の場所には取付けられません。
  - ガステーブルの近くなど高温(50℃以上)になる場所
  - 浴室など湿気の多い場所
  - 直射日光のあたるところ
  - 湯気や水しぶきや油のかかるところ
  - 幼児の手が届くところ
- リモコンケーブルの長さが50m以内になる場所としてください。



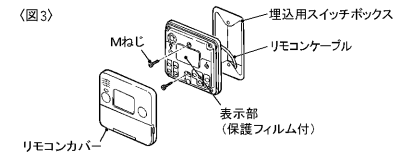
### 壁面に取り付ける場合(露出配線)

- (1) 下ケースの「ケーブル口」をニッパーなどで切欠く。(図1)
  - (2) リモコンケーブルを付属のY型端子に圧着して端子に接続し、リモコンケーブルをリード線止めにする。(図1)
- (参考) Y型端子用手動式圧着工具  
● 日本圧着端子製造株式会社 YHT-2210(JIS 9711規格品)
- 【お願い】 ● リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。
- (3) マイナスドライバーなどで、リモコンカバーをケースからはずす。
  - (4) リモコンケースを木ねじ2本で壁に固定する。(図2)  
壁がコンクリートブロックなどの場合は、オールプラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2箇所)をあけオールプラグを打ち込んでから木ねじ2本でリモコンケースを固定します。
- 【お願い】 ● リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- (5) 表示部の保護フィルムをはずす。
  - (6) リモコンカバーをケースにはめ、リモコンケーブルを壁に固定して配線する。(図2)



### リモコンケーブルを壁中に通す場合(埋込配線)

- リモコン取付け位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取付けておきます。
  - リモコンケーブルを電線管に通し、貯湯タンクユニットまで配線しておきます。
- (1) 埋込用スイッチボックスから出ているリモコンケーブルを付属のY型端子に圧着して、端子に接続する。(図1)
- 【お願い】 ● リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。
- (2) マイナスドライバーなどで、リモコンカバーをケースからはずす。
  - (3) リモコンケースをMねじ2本で埋込用スイッチボックスに固定する。(図3)
- 【お願い】 ● リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- (4) 表示部の保護フィルムをはずす。
  - (5) リモコンカバーをケースにはめる。



【お願い】

- リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。

すきまがないこと  
リモコン  
凹凸面には取付禁止



# リモコン工事(つづき)

## 7-2. 浴室リモコン(別売 RMC-HP4BD) 取付工事

### 付属品

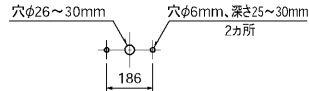
部品名	数量	部品名	数量
木ねじ	4	取付パイプ(太)	1
オールプラグ	2	取付パイプ(細)	1
カバー(パッキン付)	1	工事説明書	1
パッキン*	1		

\*パッキンはリモコンに付いています。仮取付けできるように両面テープになっています。

- 【お願い】
- リモコン本体を分解しないでください。
  - 操作説明ラベル(本体取扱説明書と同梱)を浴室リモコンの近傍に貼付けてください。
  - リモコンを直接砂の上や鉄くずのある床の上におかないでください。スピーカー部(左上)に鉄粉等が付着し、音が出なくなります。

### コンクリート、タイルなどの壁に取付ける場合(壁貫通)

- 壁厚200mmまで取付け可能です。
- 壁に貫通穴(φ26~30mm)、オールプラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込みます。



- (1) マイナスドライバーなどで、リモコンカバーをケースからはずす。
  - (2) 取付パイプ(太)を壁の厚さに合わせてカットし、リモコンコードを通してリモコンにねじ込む。
  - (3) 木ねじでリモコンを壁に固定して、リモコンコードをカバー、取付パイプ(細)を通して、取付パイプ(細)をねじ込み、カバーを木ねじ2本で止める。
- 【お願い】●リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。

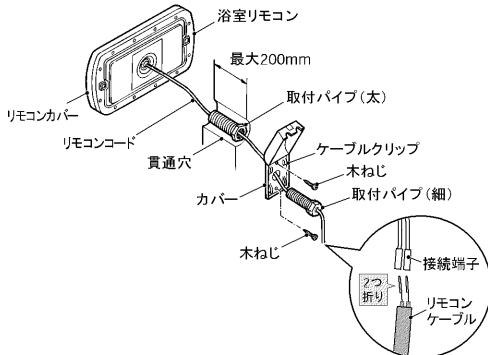
- (4) リモコンケーブルの芯線を2つ折りにして、リモコンコード接続端子に圧着する。

引張強度 35.6N以上を圧着後に確認してください。

〈参考〉接続端子用自動式圧着工具  
●日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216

【お願い】●リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。

- (5) 接続部がカバーの内側になるようにケーブルクリップにリモコンケーブルを巻付けてカバーのふたをする。
- (6) 表示部の保護フィルムをはずす。
- (7) リモコンカバーを取付ける。

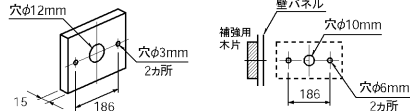


### 取付場所の選定

- 浴室リモコンは必ず平らな面に取付けてください。(凹凸があると取付時に変形して誤動作することがあります。)
- 取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところを選んでください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取付けてください。
- リモコン線の長さが50m以内になる場所としてください。
- カバーは湿気の少ない場所に取付けてください。

### ユニットバスに取付ける場合(壁内配線)

- 取付パイプ、カバー、オールプラグは使用しません。
- 室内側からリモコンケーブルを通しておきます。
- 壁にリモコンコード用穴(φ10mm)と、リモコン取付け用穴(φ6mm)をあけます。
- 壁パネルに取付ける場合、裏側に補強用の木片を取付けます。(木片にリモコンコード用穴(φ12mm)とリモコン取付け用穴(φ3mm、2カ所)をあけます。)
- 補強用の木片を接着剤などで壁表面に付けます。
- 木片は現地を用意してください。



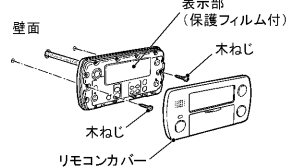
補強用木片参考寸法図

- (1) マイナスドライバーなどで、リモコンカバーをケースからはずす。
- (2) リモコンケーブルの芯線を2つ折りにして、リモコンコード接続端子に圧着し、必ず、木ねじ2本でリモコンを固定する。

引張強度 35.6N以上を圧着後に確認してください。

【お願い】●リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。

- リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- (3) 表示部の保護フィルムをはずす。
  - (4) リモコンカバーを取付ける。



【お願い】

- リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。

凹凸面には取付禁止

## 7-3. リモコンケーブルと貯湯タンクユニットの接続工事

- 台所リモコン、浴室リモコン、サブリモコンの端子はどちらも無極性です。

### サブリモコンを使用しない場合

- (1) 前面カバーを外す。
- (2) 各リモコンから貯湯タンクユニットまでのリモコン線を、PF管(φ16)に通す。
- (3) リモコンケーブル口から各リモコン線を通し、リモコン線の芯線をリモコン接続端子に圧着する。(図1)

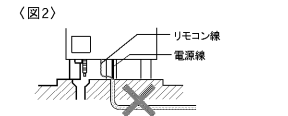
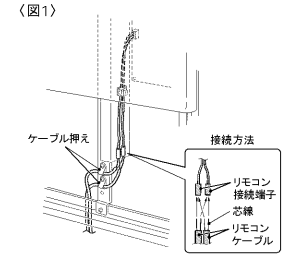
引張強度 35.6N以上を圧着後に確認してください。

〈参考〉接続端子用自動式圧着工具 日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216

- (4) ケーブル押えでリモコン線を固定する。

【お願い】

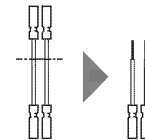
- リモコン線どうしの中継は誤動作の原因になりますので行わないでください。
- リモコン線は電源線と離して(約5cm)配線してください。近いとノイズによる誤動作の原因になります。
- リモコン線は、引っ張っても端子に直接圧力がかからないようにケーブル押えで確実に固定してください。
- 電源線とリモコン線を同一パイプ内で配線しないでください。リモコンが誤動作する場合があります。(図2)
- リモコン線を接続端子に接続するときは、200V電源ブレーカーの電源レバーを「切」にしてから接続してください。
- リモコン線は、本体内部の横槽の内側を通してください。



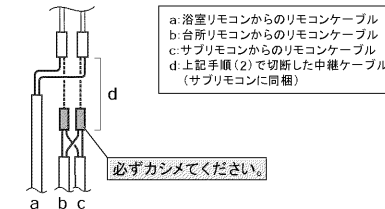
### サブリモコンを使用する場合

〈サブリモコンを最初から使用する場合〉

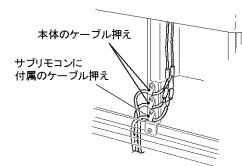
- (1) 前面カバーを外す。
- (2) サブリモコンに付属の中継ケーブルを途中で切断する。



- (3) 下図に従って接続する。

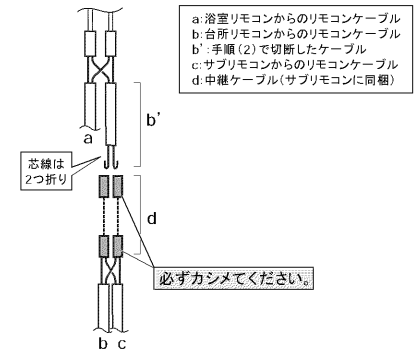


- (4) 本体のケーブル押えとサブリモコンに付属のケーブル押えでリモコンケーブルを固定する。

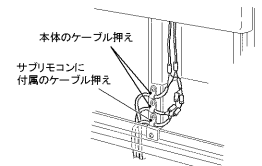


〈サブリモコンを後から使用する場合〉

- (1) 前面カバーを外す。
- (2) 接続されている台所リモコンのリモコンケーブルを途中で切断する。
- (3) 下図に従って接続する。



- (4) 本体のケーブル押えとサブリモコンに付属のケーブル押えでリモコンケーブルを固定する。



# 8.工事完了確認（試運転）

【お願い】 ●お客さま立会いで試運転（湯はりが完了するまで）を実施し、初期設定項目の確認を行ってください。

### 1.給水（ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット接続後、水を入れます。）

(1) 逃し弁のレバーを開く

(2) 給水配管用不凍結水栓を開き水を入れる

(3) 満水になったら逃し弁のレバーを閉じる

● 排水口から水が出てきたら満水です。（満水までの目安は30分です。）

(4) 湯水混合栓をお湯側にして開き、水が出ることを確認する

手順(3)で排水口から水が出ない場合は下記手順により自動止水弁のリセットを行ってください。

**自動止水弁のリセット方法（形名に「D」の付くタイプのみ）**

- 200V電源ブレーカーを「入」にする
- 漏電遮断等の電源レバーを「入」にし、30秒間放置した後、「切」にする

電源レバー

【お願い】 ●タンクが満水になるまでは湯水混合栓を開かないでください。

### 2.ストレーナーの掃除

(1) 貯湯タンクユニット内のストレーナー部のゴミつまりを点検する

● ストレーナー点検は給水配管用不凍結水栓を閉じて行い、点検終了後に再び開きます。

(2) ヒートポンプ配管のストレーナー部のゴミつまりを点検する

● ストレーナー点検は給水配管用不凍結水栓とメンテナンスバルブ（右図）を閉じて行い、点検終了後に再び開きます。

逃し弁、メンテナンスバルブの取付位置

注 マネンテナンスバルブのレバーはテープで固定されています。テープを外してから操作してください。

### 3.機器のエア抜き

(1) 逃し弁のレバーを約5秒程度開いてから閉じる

● タンク上部のエアを抜きます。

(2) ヒートポンプユニットの水抜き栓（3カ所）を開き、1カ所ずつ水が充分に出るのを確認してから水抜き栓を閉じる

＜順序＞

- A側水抜き栓
- 熱交換器水抜き栓
- B側水抜き栓

(3) 200V電源ブレーカーと貯湯タンクユニットの漏電遮断器の電源レバーを「ON」にする

● 通電後、漏電遮断器のテストボタンを押し、動作確認をしてください。「ON」になっていた電源レバーが「OFF」になれば正常です。確認後は電源レバーを「ON」に戻してください。

(4) 台所リモコンの「時間すすむ」と「時間もどる」スイッチを3秒以上の同時押しでヒートポンプ側給水ポンプの強制運転をします。（エア抜き運転）

● 強制運転は10分以上（目安）行なってください。強制運転を停止するときは、台所リモコンの「時間すすむ」「時間もどる」スイッチを3秒以上同時に押してください。（停止操作を行わなくても、強制運転は約20分後に自動で停止します。）

● 運転停止回数設定されているとエア抜き運転は動作しません。

(5) 強制運転の途中でヒートポンプB側水抜き栓を開き、再びエア抜きをする

● 2分以上連続して勢いよく水が出るまで行います。

(6) 逃し弁のレバーを約1分開いてから閉じる

● タンク上部のエアを抜きます。

### 4.初期設定とヒートポンプユニットの運転

(1) 台所リモコンで以下の設定を行います。

- 時刻を確認する
- 電力契約モードを選ぶ
- 巻き上げモードを設定する（「おまかせ」を推奨します。）
- 運転モードを「通常モード」に設定する（「深夜のみモード」には昼間は巻き上げしません。）

(2) ヒートポンプユニットが正常に運転していることを確認する（確認方法として30分～1時間後に、残湯量表示が点灯する、温度表示が上昇する、貯湯タンクユニット側のヒートポンプB配管が熱くなるなどがあります。）

【お知らせ】

- エラーコード「C03」「C16」「C17」「C19」「C20」「C21」「E03」「E17」の表示は、エラーを解除（解除方法は、ヒートポンプ配管へ正常に水が回っていないことが考えられます。右の項目を点検してください。（運転から停止までの時間：30分～120分程度）
- メンテナンスバルブが閉じている → 開いてください
- タンクが満水になっていない → 満水にしてください
- ヒートポンプ配管のエア抜きが不十分 → エア抜きをしばらく行ってください

※ その他のエラー（時計表示以外）が表示された場合は、エラーを解除（解除方法は、21ページ）して最初からやり直してください。

### 5.湯はり動作の確認（貯湯タンクユニット内が水でも次の操作により、湯はり動作が確認できます。）

(1) 浴室リモコンの「ふる温度設定▼（低）」「ふる自動」スイッチを同時に押す（水による自動湯はり試運転が開始します。）

【お願い】

- 浴槽の水を排水してから、湯はりをしてください。
- 水栓から浴槽への湯はりはしないでください。
- 必ず湯はりを完了させてください。（途中で湯はりを止めたりすると、水位を誤検出し、翌日以降、湯はりが正常に行われな場合があります。）

(2) 湯はりが完了すると、音声またはブザー等でお知らせします。

(3) 浴槽の湯量（水位）を確認し、お客さまご希望の湯量に合わせる

【お願い】 ●ふる配管の接続部から水漏れがないことを確認してください。（浴槽アダプターから多量に泡が出続ける場合は、水漏れの可能性があります。）

### 6.正常動作の確認

(1) 台所リモコンおよび浴室リモコンが取扱説明書の通りに操作できることを確認する

(2) 試運転完了後、浴槽の水を排水する

【お願い】 ●動作確認後は、漏電遮断器の電源レバーを「ON」のままにしておいてください。

### 7.施工後すぐに使用しない場合

施工後、お客さまへ引き渡すまで長期間の場合は、以下の手順で貯湯タンクユニットおよびヒートポンプユニット内の水を排水してください。施工後すぐに給湯機を使用する場合は不要です。

【お願い】 ●施工後すぐに使用しないときは、凍結防止のため、必ず水抜き栓から水を抜く。水抜きをせずに電源を切り放置すると凍結により機器が破損し、水漏れをすることがあります。

(1) 給水配管用不凍結水栓を閉じる

(2) 逃し弁のレバーを開く

(3) 台所リモコンの「時間すすむ」「時間もどる」スイッチを3秒以上の同時押しでヒートポンプ側給水ポンプの強制運転をする（エア抜き運転）

必ず1分以上行ってください。

(4) エア抜き運転中に漏電遮断器の電源レバーを「切」にする

(5) 貯湯タンクユニット内の排水栓を開く

水が抜けるまでに約40分かかります。

(6) ヒートポンプユニットの水抜き栓（3カ所）および空気抜き栓（1カ所）を開く

(7) 貯湯タンクユニットの水抜き栓（6カ所）を開く

(8) 給湯配管口水抜き栓（ホース付）を開く

【お願い】 ●排水時はやけどに注意してください。給湯配管水抜き栓からは熱いお湯が出る場合があります。

●この手順で水抜きを行わないと凍結により機器が破損し、水漏れすることがあります。

●上記手順（8）の「給湯配管口水抜き栓を開く」を行う際、ホースがねじれないように、一度、ホースを本体の外に出してから水抜き栓を開いてください。

(9) 給湯配管用不凍結水栓を閉じる

(10) 逆止弁の解除ボタンを押す

(11) 手順（6）～（8）（各ユニットの水抜き栓、空気抜き栓を開く）完了後、1時間程度放置してから、下記の水抜き栓、空気抜き栓、排水栓を閉じる

給湯機を使用するときは、必ず取扱説明書 12～13ページに従ってください。

## 9. チェックリスト

- 据付工事後は、必ずお客さま立ち合いのもとで下表にあげたチェック項目を確認してください。不具合があった場合は、必ず直してください。機能が発揮できないばかりか安全性が確保できません。  
(■部は据付工事確認書のチェック項目です。)

■据付状態		判定	
1	ヒートポンプユニットの据付に簡易基礎を使用していますか。	6	ヒートポンプユニットの施工制約は守られていますか。
2	積雪地区で使用する場合、積雪対策はされていますか。	7	可燃性ガスや引火物は近くにありませんか。
3	貯湯タンクユニットの脚がアンカーボルトで固定されていますか。	8	設置面は、排水・防水処理してありますか。
4	貯湯タンクユニット満水時の重量に十分耐えますか。	9	排水配管にトラップが設けられていますか。
5	機器のメンテナンススペースは確保されていますか。	10	各ユニットケースに傷や変形はありますか。
■配管工事		判定	
1	給水配管用不凍給水栓、給湯配管用不凍給水栓は適切な位置についていますか。	7	浴槽アダプターは、説明書通りに施工されていますか。
2	ヒートポンプ配管はベアチューブでなく独立した配管となっていますか。	8	排水管材は90°Cの温度に十分耐える材料になっていますか。
3	排水ホッパーはついてますか。排水口は排水ホッパーの中心にありますか。	9	ヒートポンプユニットのドレン水が凍結しないように対策されていますか。万一、再凍結したとき、危険な状態とならないように対策されていますか。
4	排水口と排水ホッパーの間隔は50mm以上あいていますか。	10	凍結防止工事は適切ですか。
5	給湯配管材は耐食性、耐熱性に問題ない材質ですか。	11	各水栓、減圧弁、ヒートポンプ配管のストレーナーは点検しましたか。
6	ふるり配管途中に鳥居配管(1力所)がある場合、高さは3m以下になっていますか。		
■電気工事		判定	
1	電源線(ケーブル)の太さは適切ですか。	6	200Vターミナルの端子の締付けは十分ですか。
2	200V電源ブレーカーはついてますか。	7	保護アース(接地)工事は確実ですか。
3	200V電源ブレーカーの定格は十分ですか。	8	配線はケーブル挿入板で固定しましたか。
4	電源は200Vですか。	9	リモコン線、電源線等は接続しましたか。
5	電力会社との契約は時間帯別電灯契約になっていますか。	10	ヒートポンプ電源通信線の極性は正しいですか。
■その他		判定	
1	通電制御型の電気料金割引について、お客さまに説明をしましたか。	4	逃し弁のレバーを上げて排水栓を開いた時、排水ホッパーから排水があふれることはないですか。
2	湯水混合栓からの流量は十分ですか。	5	試運転は異常なく終了しましたか。
3	各種配管からの水漏れはないですか。		

## 10. お客さまへの説明

- 取扱説明書を使用して、正しい使い方をお客さまに説明してください。特に「安全のご使用いただくために」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので必ず守るようご説明ください。
- 「日常点検とお手入れ」の項目や「冬期の凍結防止について」については、機器で具体的に説明してください。
- この給湯機は、申請によって通電制御型として電気料金の割引が適用されます。適用を受けるため、最寄りの電力会社に申請していただくようお客さまへご説明ください。(買い替え時などで機種変更した場合でも、電力会社へ申請が必要です。)
- 設置後すぐにわき上げを開始しますが、異常ではありませんのでお客さまへご説明ください。
- お客さまのお湯の使用状況によっては、昼間にもわき上げを行うことがあります。異常ではありませんのでお客さまへご説明ください。

## 11. エラーが表示された場合

### ●「P16」(ヒートポンプ配管逆接続)が表示された場合

ヒートポンプわき上げ中に、エラーコード「P16」が表示された場合は、ヒートポンプ配管のAとBが逆に接続されていないか確認してください。

### ●「103」「117」「HP/PIPE」(ヒートポンプ自己診断表示)が表示された場合

ヒートポンプわき上げ中において、エラーコード「C03」「C17」「C20」いずれかのリトライ中(3分間)にリモコンの時計表示部にそれぞれ「103」「117」「HP/PIPE」のコードが表示されませんが故障ではありません。

最終的にエラーコード「C03」「C16」「C17」「C19」「C20」「C21」が表示された場合はヒートポンプ配管へ正常に水が回っていないことが考えられますので、下記の項目を点検してください。

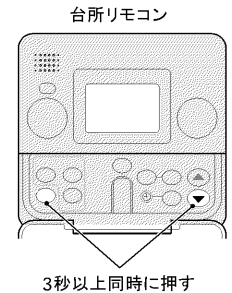
- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| ●ヒートポンプ配管のエア抜き不十分                             | →エア抜きをはじめから行ってください。             |
| ●ヒートポンプ配管の水漏れ、つぶれ、つまり                         | →水漏れ、つぶれ部分を修正・交換し、つまりを除去してください。 |
| ●ヒートポンプ配管のA、B配管に止水栓(逆止弁付)など流れのさまたげとなるものが付いている | →外してください。                       |
| ●ヒートポンプユニットのストレーナーつまり                         | →つまりを除去してください。                  |
| ●貯湯タンクユニットへ給水されていない                           | →貯湯タンクユニットへ給水してください。            |
| ●貯湯タンクユニット内のメンテナンスバルブが開いている                   | →閉いてください。                       |
| ●ヒートポンプ配管の凍結                                  | →凍結部をとかしてください。                  |

### ●エラーの解除(リセット)方法

すべてのエラーは、台所リモコンのエラー強制解除により、解除できます。

〈解除方法〉  
タンク内湯温表示スイッチと給湯湯温▼スイッチを3秒以上同時に押す

〈解除内容〉  
エラーだけを強制的に解除します。  
(異常内容によっては、強制解除後、再びエラーが表示されます。)



注. 貯湯タンクユニットの制御基板内のリセットスイッチ(SW4)を5秒以上押すことでもエラーは解除できます。

上記にてリセットしてもエラーが再表示される場合は、エラーコード一覧(→22~23ページ)の処置方法にしたがって対応してください。

# 12.エラーコード一覧

## (1)ヒートポンプユニット関連

※4.5kW用-SRT-HPU454K, 6.0kW用-SRT-HPU604K

表示	エラー内容	ヒートポンプユニット該当コネクタ※ 4.5kW用 6.0kW用	処置
C01	冷媒ガス不足	-	●エラー強制解除
103	高圧異常(リトライ状態)	-	下記処置を行ってからエラー強制解除 ●ヒートポンプ配管のAとBが逆に接続 → 正常に接続 ●貯湯タンクユニット内のメンテナンスバルブが開いている → 閉く ●ヒートポンプ配管に止水栓(逆止弁付)など流れのきまつたものが付いている → 外す ●ヒートポンプ配管のエア抜き不十分 → エア抜きを実施 ●ヒートポンプ配管の水漏れ, つぶれ, つまり → 水漏れ, つぶれ部分を修正・交換, つまりを除去 ●ヒートポンプ配管の凍結・凍結部をとかす ●貯湯タンクユニットへ給水されていない → 貯湯タンクユニットへ給水 ●ヒートポンプユニットのストレーナーつまり → つまりを除去
C03	高圧異常	-	●ヒートポンプユニットのストレーナーつまり → つまりを除去
C04	冷媒出口サーミスタ短絡・断線	CN3	CN203
C05	給水サーミスタ短絡・断線		
C06	わき上げサーミスタ短絡・断線		
C07	フロストサーミスタ短絡・断線		
C08	エバ入口サーミスタ短絡・断線		
C09	外気温サーミスタ短絡・断線		
C11	吐出サーミスタ短絡・断線		
C14	インバータ〜ヒートポンプユニット基板間通信異常(SRT-HPU454Kのみ)	CN7 CN21	-
C15	ファンモーター異常	CN22	CN205
C16	給水ポンプ異常	CN23	CN206
117	わき上げ温度高温異常(リトライ状態)	-	下記処置を行ってからエラー強制解除
C17	わき上げ温度高温異常	-	●ヒートポンプ配管のAとBが逆に接続 → 正常に接続 ●貯湯タンクユニット内のメンテナンスバルブが開いている → 閉く ●ヒートポンプ配管に止水栓(逆止弁付)など流れのきまつたものが付いている → 外す ●ヒートポンプ配管のエア抜き不十分 → エア抜きを実施 ●ヒートポンプ配管の水漏れ, つぶれ, つまり → 水漏れ, つぶれ部分を修正・交換, つまりを除去 ●ヒートポンプ配管の凍結 → 凍結部をとかす ●貯湯タンクユニットへ給水されていない → 貯湯タンクユニットへ給水 ●ヒートポンプユニットのストレーナーつまり → つまりを除去
C19	冷媒吐出温度異常	CN3	CN203
HP PIPE	ヒートポンプ配管エア抜き不足, 配管つぶれ, 止水栓閉などでの循環不良(リトライ状態)	-	-
C20	わき上げ温度高温異常	-	-
C21	わき上げ温度低温異常	-	-
C23	インバータ異常(出力回路異常)	-	-
C24	インバータ異常(制御回路異常)	-	-
C25	インバータ異常(電流検出回路異常)	-	-
C26	コンプレッサ・サイクル系異常(負荷過大)	-	-
C27	コンプレッサ・サイクル系異常(負荷急変)	-	-
C29	コンプレッサ・サイクル系異常(負荷過大)	-	-
C31	圧力センサ短絡・断線	CN32	CN204
C32	除霜電磁弁異常	CN33	CN202

注) エラーコード「HP/PIPE」(C20)「C20」発生時は,上記の処置内容を確認後,必ずヒートポンプ配管のエア抜き(→18ページ)を行なってください。実施しない場合,再び「HP/PIPE」(C20)エラーが発生することがあります。  
エア抜きを行うときは,やけどに注意してください。

## (2)貯湯タンクユニット関連

ユーザーメッセージ(機器の故障ではありません。)

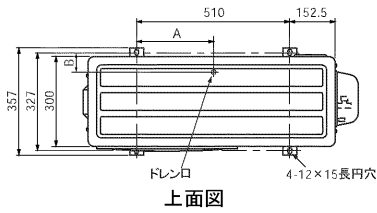
表示	エラー内容	処置
U00	給水高温エラー	●給水口にお湯が供給されている。→貯湯タンクユニットの給水口に水を供給してください。ソーラー温水器や給湯機が接続されている時は,据付工事店(販売店)へご相談ください。
U03	ふる配管の凍れ(溶槽性忘れ)	下記確認後,ふる自動ON ●ふる配管の凍結・溶れ,つまりを確認(内視鏡のみ見れている場合がありますので行き・戻りとも確認してください。) ●溶槽性忘れの確認 ●凍結し設定量の確認(溶槽アダプタより) → 湯はり量を増やす ●ふる循環ポンプコネクタ(P32)と循環フロースイッチ用コネクタ(P70) 接続を確認(中継コネクタ含む)
U05	追いだし湯切れ	●深夜のみ設定を解除する ●湯タンク増しを行い湯量を確保
U09	湯はり試運転	●溶槽水排水後,再度試運転を行う

## エラー表示

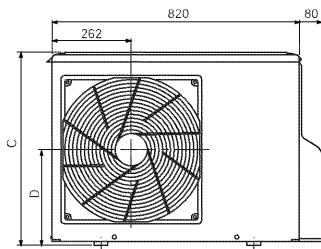
表示	エラー内容	解決に必要経過時間	処置
E05	ふる用湯温サーミスタ短絡・断線	P71	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → 再表示したらサーミスタ交換
E06	給湯湯温サーミスタ短絡・断線	P72	
E07	ふる循環入口サーミスタ短絡・断線	P46	
E08	ふる循環出口サーミスタ短絡・断線	P74	
E10	ふる循環熱源出口サーミスタ短絡・断線	P44	
E11	ヒートポンプ入水温度サーミスタ短絡・断線	P75	
E12	凍結防止制御用サーミスタ短絡・断線	P47	
E13	残湯[0L]サーミスタ短絡・断線	P50	
E16	混合弁給水水温サーミスタ短絡・断線	P52	
E17	ふる循環出口/入口サーミスタハーフェッド	P74, P46	
F20	残湯[50L]サーミスタ短絡・断線	P50	
E21	残湯[100L]サーミスタ短絡・断線		
E22	残湯[150L]サーミスタ短絡・断線		
E23	残湯[200L]サーミスタ短絡・断線		
E24	残湯[250L]サーミスタ短絡・断線	P51	
E25	残湯[300L]サーミスタ短絡・断線(タンク容量:370L) 残湯[410L]サーミスタ短絡・断線(タンク容量:460L)		
F06	水位センサ短絡・断線		P42
F08	貯湯タンクユニット漏水検知(Dタイプのみ)	P45	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → 再表示したら水位センサ交換 ●ふる配管凍結 → 凍結防止工事実施 ●貯湯タンクユニット内の漏水箇所の処置をし,漏水センサ部の水抜き後,エラー強制解除
H01	リモコン通信異常	P1	●リモコン形名確認 → 機種(本体)に応じたリモコンに交換 ●貯湯タンクユニットに100V電源が供給されている → 200Vに変更
省所H03	異機種リモコン接続エラー	P1	●台所リモコン形名確認 → 機種(本体)に応じたリモコンに交換
浴室H03	異機種リモコン接続エラー	P1	●浴室リモコン形名確認 → 機種(本体)に応じたリモコンに交換
H10	ヒートポンプユニット・貯湯タンクユニット間通信異常 ※ヒートポンプユニット・貯湯タンクユニット間の通信は,複線があります。	P80	下記処置を行ってからエラー強制解除 ●電源専用通信3芯ケーブル接続確認 ●電源通信線が貯湯タンクユニット〜ヒートポンプユニット間に正しく接続されているかを確認 ●ケーブル接続・断線確認 ●貯湯タンクユニットのコネクタ(P80),ヒートポンプユニットのコネクタ(CN30) 抜けを確認 ●アース工事確認 ●HP電源リー用コネクタ(P95) 抜けを確認 ●ヒートポンプユニットのリセット(貯湯タンクユニットの漏電遮断器を1分間「切」にし,再度「入」にする)
H11	異機種ヒートポンプユニット接続	-	●貯湯タンクユニットとヒートポンプユニットの組み合わせが正しくない → 正しい組み合わせになるように間違っているユニットを交換する ●貯湯タンクユニットのタンク容量設定が誤っている → 正しいタンク容量に設定する
P00 P10 P11	ふる給湯用電動混合弁異常	P71	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → ふる自動ON,再表示したら混合弁交換
P01 P20 P21	給湯用電動混合弁異常	P72	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → 蛇口開,再表示したら部品交換
P02	循環フロースイッチ異常	P46	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → ふる自動ON,再表示したら部品交換
P03	ふる循環二方弁異常	P70	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → 蛇口給湯→停止→エラー履歴確認 → 再表示したら水側配管内逆止弁交換
P04	逆止弁異常(エラー履歴のみ表示されます。)	-	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → 蛇口給湯→停止→エラー履歴確認 → 再表示したら水側配管内逆止弁交換
P05	ふる用流量センサ/ふる給湯用電磁弁異常	P31 P71	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)ふる自動をONし,浴槽アダプター,ふる配管の凍結・溶れ,つまりを確認 → 再表示したら電磁弁交換
P13	バイパス電動弁異常	P75	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → 再表示したらバイパス電動弁交換
P16	ヒートポンプ配管逆接続	-	下記処置を行ってからエラー強制解除 ●ヒートポンプ配管のAとBが逆に接続 → 正しく接続
P17	高温貯湯異常	-	下記処置を行ってからエラー強制解除 ●①貯湯タンクユニットの漏電遮断器を「切」にする ②逃し弁を開き5分以上お湯を抜いた後,逃し弁を閉じる ③貯湯タンクユニットの漏電遮断器を「入」にする → 再表示したら,残湯0Lサーミスタまたは貯湯タンクユニット基板交換 再表示しなかったら,湯タンク満ち増しでわき上げを行い,更に再表示した場合は,わき上げサーミスタまたはヒートポンプユニット基板交換
P30	ふる循環熱源ポンプロック	P35	●タンク循環配管エア抜き,エラー強制解除 ●コネクタ抜け(中継コネクタを含む)確認後,エラー強制解除
P31	ふる循環熱源流量調整弁閉塞判定	P74	●コネクタ抜けを確認後(中継コネクタ含む)エラー強制解除 → ふる自動ON,再表示したら部品交換

# 外形寸法図 〈寸法単位:mm (ねじ頭等の突起物の寸法は含まず)〉

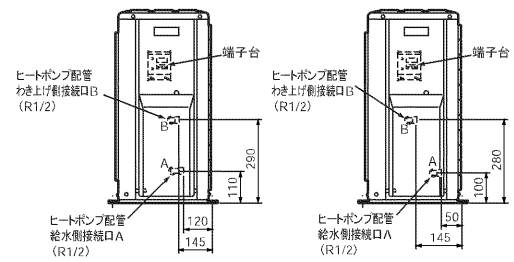
## ヒートポンプユニット



形名	A	B	C	D
SRT-HPU604K (6.0kW)	255	64	650	330
SRT-HPU454K (4.5kW)	124	53	640	320

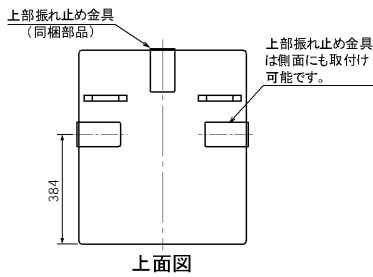


正面図

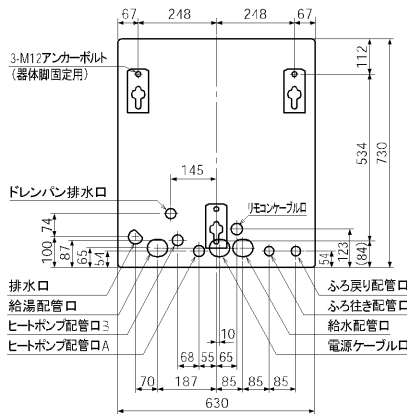


配管位置 右側図

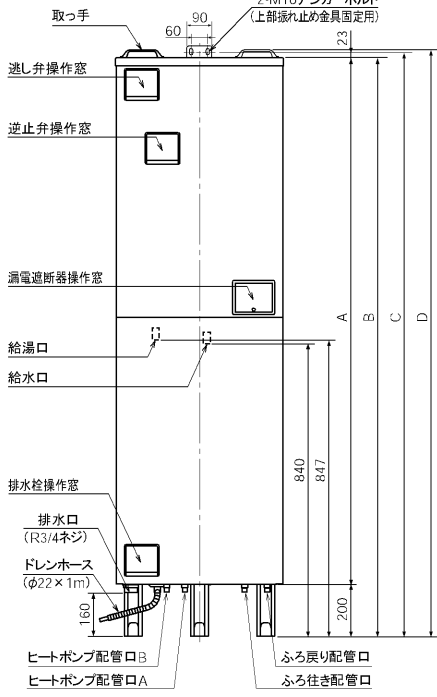
## 貯湯タンクユニット



上面図



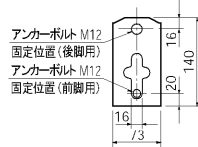
配管、アンカーボルト位置上面透視図



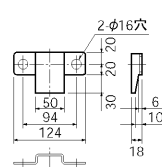
正面図

形名	SRT-HP374WFK SRT-HP374WFKD	SRT-HP464WFK
寸法 (mm)		
A	1,630	1,970
B	1,830	2,170
C	1,853	2,193
D	1,860	2,200

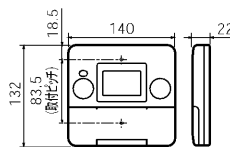
### 器体脚詳細図



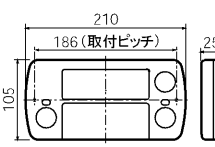
### 脚固定金具 (同梱部品)



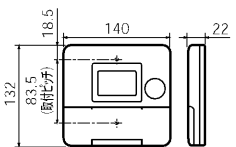
### 台所リモコン (RMC-HP4KD)



### 浴室リモコン (RMC-HP4BD)



### サブリモコン (RMC-HP4KZ)



群馬製作所 〒370-0492 群馬県太田市岩松町800 電話番号 0276-52-1111 (代表)